

メキシコ政治情勢（5月）

〔概要〕

【内政】

- 3～10日、エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率、州知事選挙の支持動向、政党別支持率等に関する世論調査結果を発表。ロペス・オブラドール大統領の支持率は57%で、前月比4%低下。
- 3日、連邦政府主催のマヤ民族に対する歴史的侵害への謝罪行事が開催。
- 3日、メキシコ市メトロの高架橋が車両とともに転落、死者28名。
- 12日、エル・フィナンシエロ紙は、メトロ高架橋転落事故を受けた世論調査（メキシコ市内）結果を発表。シェインバウム・メキシコ市長の支持率は22%低下。
- 13日、連邦政府主催のメキシコ市建設700周年記念行事が開催。
- 17日、連邦政府主催のコアウイラ州中国系コミュニティに対する「謝罪」行事が開催。
- 17日、エル・pais紙は、大統領支持率、連邦下院議員選挙に係る世論調査結果を発表。「ロ」大統領の支持率は66%。
- 18日、エル・フィナンシエロ紙は、メトロ高架橋転落事故を受けた世論調査（全国）結果を発表。「シ」メキシコ市長の支持率は10%低下、エブラル外相の支持率は12%低下。
- 24日、野党連合が議会活動における同盟を発表。
- 27日、エル・ユニベルサル紙は、連邦下院議員選挙、各党の推定獲得議席数に係る世論調査結果を発表。
- 31日、「ロ」大統領は、平和で暴力のない選挙実施を呼びかけ。

【外交】

- 3～4日、ジャマテイ・グアテマラ大統領がメキシコを訪問。
- 6日、「エ」外相とマヨルカス米国国土安全保障局長官が会談。
- 6日、墨政府は、米国国際開発庁から墨反政府系NGOへの財政援助停止を要請。
- 7日、「ロ」大統領とハリス米国副大統領が会談。
- 13日、墨米政府高官による治安対策協議が開催。
- 19日、墨政府調達の新型コロナウイルス・ワクチンが3,000万ドースに到達。
- 21日、「ロ」大統領がG20グローバル・ヘルス・サミットに出席。
- 24日、エクアドル新大統領就任式にレジェス外務次官が出席。
- 25日、第2回墨仏ハイレベル経済協議が開催。
- 25日、米国航空局が墨エアスペースの格付けを引き下げ。
- 25日、墨亜共同生産の抗新型コロナウイルス・ワクチンの供用開始が発表。
- 27日、第9回墨エルサルバドル二国間委員会が開催。

● 27日、英誌「The Economist」のメキシコ関連の記事で「ロ」政権に批判的な論調が見られたことを受け、同日夜に「エ」外相が同誌編集長宛に右記事内容への反論書簡を発出。

【内政】

1 大統領支持率、政党別支持率等に係る世論調査結果

3～10日、エル・フィナンシエロ紙が、①大統領支持率等、②州知事選挙の支持動向、③政党別支持率等に関する世論調査結果を発表。①ロペス・オブラドール大統領の支持率は57%（前月比4%減）。不支持率は41%（前月比5%増）。②6月の州知事選（15州で実施）に係る支持動向は、9州で与党系が優勢としつつも、13州で与党系候補の支持率が低下した。③主要政党への支持率は、国家再生運動（MORENA）が42%、国民行動党（PAN）が17%、制度的革命党（PRI）が22%。支持政党なし（または不明）は33%。

2 連邦政府主催のマヤ民族に対する歴史的侵害への謝罪行事が開催

3日、連邦政府主催のマヤ民族に対する歴史的侵害（16世紀のカースト戦争中の被害）への「謝罪」行事がキンタナロー州で開催され、「ロ」大統領夫妻、ジャマテイ・グアテマラ大統領（名誉賓客）他が出席・演説した。

3 メキシコ市営メトロ高架橋が転落

3日、メキシコ市東部（トラワック・イスタパラパ両区の境界付近）で、メトロ12号線の高架橋が運行中の車両とともに転落し、死者28名、負傷者約80名（これまでの判明分）が発生した。建設工事に問題があったとされ、調査中なるも、建設時から現在までのメキシコ市長（エブラル現外相、マンセラ現上院議員（民主革命党）、シェインバウム現市長）の責任を問う声が上がった。

4 メキシコ市営メトロ高架橋転落事故に係る世論調査結果

12日、エル・フィナンシエロ紙は、3日に発生したメトロ高架橋転落事故を受け、メキシコ市内の有権者への世論調査結果を発表。「シ」メキシコ市長の支持率は、前月の71%から49%に低下（22%減）。同事故の責任は特に誰にあると思うか、との問いに対しては、45%が建設時のメキシコ市長であった「エ」外相と回答。「シ」メキシコ市長との回答は14%であった。

5 連邦政府主催のメキシコ市建設700周年記念行事が開催

13日、連邦政府主催のメキシコ市（テノチティトラン）建設700周年記念行事がメキシコ市内で開催され、「ロ」大統領夫妻、「シ」市長、ルセーフ・元ブラジル大統領（名誉賓客）他が出席・演説した。

6 連邦政府主催のコアウイラ州中国系コミュニティに対する「謝罪」行事が開催

17日、連邦政府主催のコアウイラ州中国系コミュニティに対する歴史的侵害（1911年のメキシコ革命時における虐殺事件）への「謝罪」行事が同州トレオン市で開催され、「ロ」大統領夫妻、祝・当地中国大使他が出席・演説。また、関連の展示、公演、セミナー等が行われた。

7 大統領支持率及び連邦下院議員選挙に係る世論調査結果

17日、西「エル・パイス」紙（メキシコ版）は、大統領支持率及び6月6日に行われる連邦下院議員選挙に向けた世論調査結果、右に基づく各党の推定獲得議席数等を発表。政党別支持率は、MORENAが44%、PRIが19%、PANが18%。各政党の推定獲得議席数（連邦下院：全500議席）は、MORENAが230議席、PRIが82議席、PANが79議席。各連合の推定獲得議席数は、与党連合が315議席、野党連合が175議席。「ロ」大統領の支持率は66%、不支持率は29%であった。

8 メトロ高架橋転落事故を受けた世論調査結果

18日、エル・フィナンシエロ紙は、メトロ高架橋転落事故を受けた世論調査結果を発表（全国規模、500名対象）。「シ」メキシコ市長の支持率は、前月比10%低下、「エ」外相の支持率は、前月比12%低下。

9 野党連合が議会活動における同盟を発表

24日、主要野党3党（PAN、PRI、PRDの連合）の党首が会談し、中間選挙に向けて結成した連合「Va por México」を、選挙対策のみならず、本年9月から始まる連邦議会新会期の活動における同盟（Alianza legislativa）として発展させる方針を発表。与党連合に釣り合うおもりとしての役割を追求するとした。

10 連邦下院議員選挙及び各党の推定獲得議席数に係る世論調査結果

27日、エル・ユニベルサル紙が、連邦下院議員選挙に向けた世論調査結果、及び各党の獲得議席数予測を発表。自分自身をMORENAの支持者と考える者は24%、PRIは11%、PANは7%。支持政党のない者は46%であった。また、政党別支持率は、MORENAが41%、PRIが15%、PANが16%であった。

11 「ロ」大統領が平和で暴力のない選挙を呼びかけ

31日、「ロ」大統領は定例早朝記者会見で、平和で暴力のない選挙を実施し、メキシコの民主主義を守るべく行動するよう国民に呼びかけた。なお、昨年9月に選挙諸手続が始まってから、5月末時点で、88名の選挙関係者が殺害された。うち34名が6月6日の選挙

候補者であった（右には、5月13日に殺害されたソノラ州カヘメ市長候補、及び同25日に殺害されたグアナフアト州モロレオン市長候補も含まれる）。

【外交】

1 ジャマテイ・グアテマラ大統領のメキシコ訪問

3日～4日、ジャマテイ・グアテマラ大統領がメキシコを公式訪問。3日にマヤ民族に対する歴史的侵害への「謝罪」行事（キンタナ・ロー州）に名誉賓客として参加した。4日の墨グアテマラ首脳会談では、国境地帯での開発強化、両国間の貿易拡充、墨政府が独自開発している抗新型コロナウイルス・ワクチンの開発協力、移民問題への対応等につき協議が行われ、首脳共同宣言が発出された。

2 エブラル外相とマヨルカス米国国土安全保障局長官の会談

5日、墨米当局間のハイレベル対話のフォローアップとして、「エ」外相がマヨルカス米国国土安全保障局（NSC）長官とオンライン会談。国境地帯での経済協力メカニズム、パンデミック対策協力、及び移民問題を巡る墨米間協力等について協議が行われた。

3 墨政府、米国国際開発庁から墨反政府系NGOへの財政援助停止を要請

6日、墨政府は米国政府に対し、同国国際開発庁（USAID）がメキシコの反政府系NGO「Mexicanos contra Corrupción e Impunidad（MCCI）」に対し財政援助を行っていたことを不服として、この停止を求める書簡を発出。米国は、同援助のあり方を再検討する旨応答した。

4 ロペス・オブラドール大統領とハリス米国副大統領の会談

7日、「ロ」大統領が「ハ」米国副大統領とオンライン会談。移民問題や経済回復を巡る墨米間協力等について協議した。「ロ」大統領は、「生命の種まき」（Sembrando Vida：墨政府の植林プログラム）の中米北部への拡大につき「ハ」副大統領に説明し、米国の支援を求めると共に、新型コロナウイルスに係るTRIPS上の義務の一時的免除の停止を支持するとの米国の決定を歓迎した。

5 墨米政府高官による治安対策協議が開催

13日、墨米政府高官による治安対策協議が開催された。治安対策関連の墨米間協力、麻薬の密輸及び消費の削減、墨米両国にまたがる犯罪組織の勢力削減等につき議論が行われた。米国側はゴンサレス国務省西半球担当上級部長が、墨側は「エ」外相がヘッドを務め、ロドリゲス墨治安・市民保護相も出席した。

6 墨政府調達抗新型コロナウイルス・ワクチンが3,000万ドースに到達

19日、墨政府（外務省、保健省、国防省、国家保健福祉機構共同）プレスリリースは、ファイザー／ビオンテック社（米）、アストラゼネカ社（英）、シノバック社（中）、ロシア国立疫学・微生物学研究ガマレヤ・センター、カンシノ社（中）の各製薬会社から、合計2,582万9,945ドースのワクチンが到着したと発表。同様に、墨国内ではドラグメックス社研究所がカンシノ社のワクチン活性物質454万5,310ドース分を完成形にしているため、その時点で合計3,037万5,255ドースが調達された（6月7日時点で、合計4,334万7,665ドース調達済）。

7 「ロ」大統領がG20グローバル・ヘルス・サミットに出席

21日、「ロ」大統領は、イタリア議長国の下で開催されたG20グローバル・ヘルス・サミットに出席。抗新型コロナウイルス・ワクチンを製造している製薬会社の特許を世界の国民及び各国に利用可能にするとのバイデン米国大統領の提案（ママ）を賞賛し、支持すると発言した。また、ワクチンの寡占状況を批判し、全ての国への公平な分配を呼びかけ、メキシコにワクチンを供給した各国政府に謝意を表した。

8 エクアドル新大統領就任式にレジェス外務次官が出席

24日、エクアドルでラッソ新大統領の就任式が行われ、墨政府からはレジェス外務次官（ラ米カリブ担当）が出席した。

9 墨仏ハイレベル経済協議の開催

25日、第2回墨仏ハイレベル経済協議が開催された。墨側は、デ・ラ・モラ経済省次官及びゴンサレス大蔵公債省次官が出席。パンデミック後の経済回復、世界経済の現状等について議論が行われ、経済回復及び経済成長に向けた墨仏協力を推進すること等で双方が一致した。また、両国は、環境に配慮したファイナンス、及び気候変動に取り組むとのコミットメントを強調した。

10 米国航空局による墨エアスペースの格付け引き下げ

25日、米国航空局による墨エアスペースの格付け引き下げが行われた。右により、墨航空会社は米国行き新航路を開拓できなくなる（ただし、既存のルートは使用可能。2010年にも同様の引き下げが発表されたが、程なくして元のカテゴリに戻された。）。

11 墨亜共同生産の抗新型コロナウイルス・ワクチンが供用

25日、エブラル外相は、大統領定例記者会見でフェルナンデス・アルゼンチン大統領と電話で会談。墨亜共同で製造されたアストラゼネカ・ワクチンに関し、同社の承認が得られれば、最初のバッチが今週末に供用される予定と述べた。アストラゼネカ社と契約を結んだラ米諸国に加え墨亜両国への供給が行われるとし、昨年8月の合意に基づいて、31日に墨

亜が夫々80万ドースを受け取った。

1.2 墨エルサルバドル二国間委員会が開催

27日、墨エルサルバドル二国間委員会が開催され、墨外務省からは、ボレゴ・ラ米カリブ局長が出席。科学技術分野における両国間協力の進展が強調された他、パンデミックによる諸課題への対策、二国間治安協力等について協議された。また、最重要課題としての中米地域からの移民問題がとり上げられ、墨政府が推進する中米統合的開発計画（PDI）を中心に安全、正規、かつ秩序立った形での移住に向けた取組に係る議論が行われた。

1.3 英誌「The Economist」のメキシコ関連記事と墨政府の反応

27日、英誌「The Economist」にメキシコ関連の記事が掲載され、その中でロペス・オブラドール政権に批判的な論調や6月の中間選挙では野党に投票すべきとの記述が見られたことを受け、同日夜にエブラル外相が同誌編集長宛に右記事内容や同号表紙へ反論する書簡を発出。28日の定例早朝記者会見では、「ロ」大統領が同誌を大変無礼で保守派及び新自由主義を代表するメディアであると批判した。

(了)